神奈川芸術プレス Vol.98
January, 2011
1

ARTS PRESS KANAGAWA

CREATOR'S VOICE 117 歌手、俳優

森田 剛

「強烈な感情の核を表現したい」
神奈川芸術劇場〈KAAT〉『金閣寺』に主演

KAATオープニングラインナップより、
日本現代演劇の最先端を観る

第18回神奈川国際芸術フェスティバル
「はじまり、はじまる。」

写真・大野純一

CREATOR'S VOICE 117

森田 剛

Go Morita 歌手、俳優

強烈な感情の核を表現したい

いのうえひでのり、蜷川幸雄など、ここ数年演劇界の大物演出家からの指名がつづく森田剛。今回は神奈川芸術劇場〈KAAT〉の芸術監督である宮本亜門から「不安な時代に生きている若者の孤独を表現する適任者」として、三島由紀夫原作『金閣寺』の主人公・溝口に配役された。訥弁ながら誠意ある言葉で、森田は舞台にかける想いを語ってくれた。

――今回はじめて宮本亜門さんとお仕事なさいます。まずは『金閣寺』に出演しないかと言われたときの第一印象を教えてください。

まわりの方がおっしゃるほど、僕には宮本亜門さんが「ミュージカルの方（かた）」というイメージはありませんでした。ですから、ただ単純に今回のストレートプレイを一緒に頑張らせていただこうと思いました。

――森田さんはここ数年『荒神〜AraJinn〜』（2005年）と『IZO』（08年）でいのうえひでのりさんと、『血は立ったまま眠っている』（10年）で蜷川幸雄さんと、役者として組まれています。なぜいま舞台作品に多く挑戦したいと思われるのでしょうか。

舞台はいま僕がとても大切にしたい仕事の一つなんです。芝居を作りあげていくプロセスや、その場に集まってくる方々の空気感、また２時間なら２時間、集中してひとつの役柄を演じられるというスタイルがとても好きなんです。だから僕、他の仕事ではわりと大丈夫なんですけど、芝居の稽古が始まるとものが食べられなくなっちゃうんですよ。極度の緊張感から、食欲がわかなくなる。でも無理にでも食べないと、倒れちゃいますからね。今回もなるべく食べて頑張ろうと思います。

――森田さんは各々の演出家が描く舞台の「絵」に溶け込む能力が高いように思います。演出家のイメージを捉えるのが得意なのでしょうか。

どうですかね。でもひとつ言えることがあるとするなら、僕は役者として「いい駒になりたい」とつねづね思っているんです。だから演出家に言われたことは、とりあえず一度は言われたとおりにやってみるようにしています。それでなるべく演出家の思い描くヴィジョンに貢献するわけです。ただ、なにも考えていない駒にはなりたくないので、どうしても違和感があるときには僕の意見を伝えるようにしています。あとは、いざセットが組まれた本番の

舞台に立ったときになにかが「見える」こともありますね。蜷川さんの舞台のときがそうでした。ずっと役の核がつかめず稽古場で悶々と悩んでいたんですけど、舞台に立ったとたん「なにかが来た」(笑)。

──『IZO』の岡田以蔵も『血は立ったまま眠っている』の良も、今回の『金閣寺』の溝口も、孤独を抱えて生きている主人公たちです。独りぽつねんとそこに立っているような寂しさを、森田さんのような華やかな場で活躍される男性が表現できることが興味深いです。

僕は孤独感であったり劣等感であったり、そんなことをわりと考えて生きているんですよ(笑)。確かに華やかに見える仕事をしているかもしれませんけれど、そこに至るまでにはいろいろありましたし…、まあとにかく僕もこの主人公たちのように、すごく考えちゃうタチなんです。だから変な話、自信が年々なくなってきているんですよ。若いときは何もわからず自信家でいられたんですけどね。社会に出て世界が見えるようになると自信がなくなってきた。でもだからこそ、自分を奮い立たせて、舞台のようなハードな仕事に挑戦したいという気持ちが湧いてくるのかもしれません。

──溝口という、繊細で臆病で劣等感に怯えながらも、強烈な自意識を抱え続ける、非常に複雑な神経回路の青年を現時点ではどう捉えてらっしゃいますか。

コンプレックスの塊のような人間だからこそ、その奥に非常に強いものがある。僕は溝口の「強さ」を表現したいと考えています。劇中の彼が置かれている状況とか、彼に降りかかってくる出来事とかって、悲しいことばかりなんです。でも彼はそこで強く生きる。それをうまく出したいですね。あと三島さんの本の難しいことはあまり分からないですけれど……、「かわいそう」とか「がんばって」とか「すごいな」とか。一つなにか強烈な感情のインパクトを残せればいいなと思っています。

──三島由紀夫原作だからこその流れるように美しいセリフまわしを、どのようにものにしたいと考えてらっしゃいますか。

ここは呼吸を入れずにバーッと言ってしまったほうがいいとか、ここはゆっくりと丁寧に話そうとか、いろいろとセリフのリズム感を考えていければと思っています。でも僕がそんなに考えなくても、言葉の美しさは本の段階でもうできあがっていますから。それをちゃんと聞こえやすいように、お客さんの心に入りやすいようにしゃべれば、美しさは自然と出てくるように思います。

──さて、稽古初日にはどのような気持ちで臨みたいと考えてらっしゃいますか。

今回は宮本さんとも初めてですし、非常に緊張します。やっぱり僕がどういう人間かを知らない人のなかに身一つで入っていくのは緊張しますからね。だけど、稽古場では自分を守っていてもしょうがないですから、なるべく早い段階で自分をさらけ出せればいいなと。まあ一回大声出しちゃえばね、恥ずかしいとか言ってられないんで。いっぱい動いて、いっぱい声を出して。それで自分の心を通して、原作の言葉をきちんと体現していければなと思います。

取材・文 岩城京子/神奈川芸術劇場クリエイティブパートナー
写真 大野純一

森田 剛(歌手、俳優)
Go Morita

1979年生まれ。「V6」のメンバーとして、95年に「MUSIC FOR THE PEOPLE」でCDデビュー。多数のシングルとアルバムをリリースし、テレビ、ドラマ、バラエティ、CMなど様々なジャンルで幅広く活躍中。
俳優としての評価も高く、ドラマは「毛利元就」(97年・NHK)、「君を見上げて」(2002年・NHK)、終戦60周年ドラマスペシャル「零のかなたへ〜THE WINDS OF GOD〜」(05年・ABC)、「喰いタン」シリーズ(06〜07年・NTV)など、映画は「COSMIC RESCUE」「ハードラック・ヒーロー」(03年)、「ホールド アップ ダウン」(05年)、「人間失格」(10年)など、舞台は劇団☆新感線『荒神〜AraJinn〜』(05年)、いのうえ歌舞伎☆號『IZO』(08年)、シアターコクーン『血は立ったまま眠っている』(10年)に主演。今回が4回目の舞台出演となる。

スタイリスト　三島和也(Tatanca)
ヘアメイク　矢向浩美

神奈川芸術劇場オープニングラインナップ
NIPPON文学シリーズ
『金閣寺』

1月29日(土)〜2月14日(月)
神奈川芸術劇場〈KAAT〉ホール
原作:三島由紀夫
原作翻案:セルジュ・ラモット　台本:伊藤ちひろ
演出:宮本亜門
出演:森田剛、高岡蒼甫、大東俊介、中越典子、高橋長英、岡本麗、花王おさむ、田村一行、湯山大一郎、若羽幸平、橋本まつり、小田直哉、加藤貴宏、岡田あがさ、三輪ひとみ、山川冬樹、瑳川哲朗
チケット料金:S席8,500円〜B席4,500円　他
※前売券は売切。
追加券や当日券のご案内はKAATホームページから。
http://www.kaat.jp/
☎045-662-8866(チケットかながわ)
助成:財団法人地域創造
平成22年度文化庁芸術拠点形成事業

COLUMN 今月の小コラム　森田 剛さんにQ&A

──横浜の街にはよく来られますか?

残念ながらあまり来たことがないんです。たまにサッカーを見に来て、それで中華街でご飯を食べて帰ったりするぐらいです。

──公演期間中に行ってみたい場所は。

美味しいおにぎり屋さんとかあると嬉しいですね。芝居期間中は、いかに早く食べて栄養補給できるかが勝負なんで。

──神奈川芸術劇場のこけら落とし公演の主役を任される。その大任をどう受け止めてらっしゃいますか。

初めてのことなので非常に責任を感じています。このあとも劇場はずっと続いていくわけですから、なるべく多くの方に見ていただいて、公演を成功させて、劇場に勢いがついてくれればいいなと思います。ただ基本的には、僕は全力を尽くしてやるだけです。

FEATURE 05

KAATオープニングラインナップより日本現代演劇の最先端を観る

チェルフィッチュ　「わたしたちは無傷な別人であるのか？」より

地点　「あたしちゃん、行く先を言って―太田省吾全テクストより―」より

今年1月から始まる神奈川芸術劇場〈KAAT〉オープニングラインナップ。芸術監督・宮本亜門演出の三島由紀夫原作『金閣寺』をはじめとする「NIPPON文学シリーズ」を中心に、作家性の高い劇作・演出家の新作が続く。中でも『チェルフィッチュ』岡田利規と『地点』三浦基による新作上演は、単なるエンタテインメントにとどまらない演劇の可能性を模索するKAATのめざす方向性を表明し強化するプログラムと言えるだろう。

劇場で行われる演劇、パフォーミング・アーツなど舞台芸術にはさまざまな「楽しみ方」がある。

紡ぎ出される物語に浸る、演じる俳優やパフォーマーの表現と卓越した技術を味わう、美術や照明、衣裳、音楽など視聴覚に迫る美しさに酔う……etc。観る人の数だけあるそれらの「楽しみ方」は、決して画一化できるものではない。神奈川芸術劇場〈KAAT〉オープニングラインナップは、アーティストと切り口の多彩さゆえ、「楽しみ方」の幅をさらに広げるプログラムと言える。

ラインナップ中でも特に、出身地・横浜を活動拠点にしており、劇場のクリエイティブパートナーでもある『チェルフィッチュ』の岡田利規と、京都の劇団『地点』を率いる三浦基は、その活動の初期から日本の舞台芸術における「楽しみ方」を更新・増幅してきたアーティストたちだ。

『チェルフィッチュ』の作品を初めて観る観客は、そのスタイルが一般的な演劇のイメージから大きく逸脱していることにまず驚くだろう。「首を傾げる」、「指で同じ方向を何度も指し示す」、「足で床に円を描き続ける」など、日常の動作を起点にしたさまざまなアクションを、度を越えたクセのように繰り返すダンスにも見える所作と、それとは無関係の抑揚に乏しい若者言葉による日常会話が組み合わされて、演劇の場を構築しているからだ。

場の設定はラブホテルやファミリーレストラン、オフィスの一隅など。そのどこでも耳にできるような会話から採取された台詞の数々は、はじめ大した意味を持たないように響く。だが同じ場面や状況が、話者を変え、輪唱のように少しずつ視点やリズムをずらしながら語られると、奇妙な変質が起きる。先の強制された繰り返しの所作などと相まって、彼らの、いや観客である私たち自身が生きることを余儀なくされている現代日本の閉塞感や、生きることにまつわる普遍的な無常があぶり出されていく。

岡田の書くテキストと彼が演出する動きは、同時に進行しながら別々の意味を伝え、そして両者が切り離されているゆえに、互いを強め合っている。さらに、身体とテキストの不自由な共存の果てには、舞台上で提示されていた閉塞した環境を突き抜ける瞬間、日常の外側を

▶P.05へ続きます。

公演情報

チェルフィッチュ「ゾウガメのソニックライフ」　2月2日（水）～15日（火）　主催 TC
岸田國士戯曲賞受賞作家、岡田利規の書き下ろしによる新作。演劇の新たな地平を常に切り拓いて来たチェルフィッチュが、活動拠点の神奈川・横浜の新劇場で、さらなる挑戦を始める！
作・演出：岡田利規　出演：山縣太一、松村翔子、足立智充、武田力、佐々木幸子
全席自由（入場整理番号付）3,500円

地点「Kappa／或小説」　3月11日（金）～21日（月・祝）　主催 TC
河童の国の描写から人間社会を批判した『河童』、神経の病を描いた『歯車』、自伝的作品『或阿呆の一生』など、舞台化されることが珍しい芥川の後期作品を中心に構成。芥川の言葉を介し、「唯ぼんやりとした不安」という言葉を残して逝った「芥川龍之介」そのものをモチーフとして、近代と現代の狭間に生きた日本人を描く。いま注目の劇団「地点」が開発したコラージュ演劇の集大成！
演出：三浦基　原作：芥川龍之介　戯曲：永山智行
出演：安部聡子、石田大、大庭裕介、窪田史恵、河野早紀、小林洋平、谷弘恵
全席指定3,500円

■チケット・お問い合わせ
☎045-662-8866（チケットかながわ）　http://www.kaat.jp/ticket/
※U24、高校生以下割引、シルバー割引あり（詳細はHPかお問合せ）

取り巻く広大無辺の世界が突如姿を現し、観る者を非日常へと大きく飛躍させるカタルシスが入念に仕組まれているのだ。

しかも岡田は、2010年2月に発表した『わたしたちは無傷な別人であるのか？』で、前述した特徴的なループした動きと若者言葉から脱し、「静的な身体と物語る言葉」を取り入れた新たな創作展開を見せている。その変化を経た新作『ゾウガメのソニックライフ』では何が起こるのか。自身を更新し続ける岡田の「現在」が、ここKAATで世界に先駆けて観客の前に姿を現すことになるだろう。

他方、『地点』三浦基の創作も台詞と身体が切り離されている点は、岡田と共通項を持っている。だが三浦は自身でゼロから台詞を書くのではなく、既存の戯曲や小説、評論など他の作家による作品、言葉をバラバラに解体し、再構築することで独自のテキストを創ることを方法としている。

三浦によって採取された言葉は、本来の文脈や場面設定、アクセントやイントネーション、文節からさえも切り離される。抽象かつ無機的な舞台空間には、映像や文章が投影されるが、そこにも「物語を伝える意味」は見い出せない。俳優は舞台上を経巡（へめぐ）り、あるいは無数に並んだコンクリートブロックの列を組み換えながら渡るというような動作をしながら、三浦が与えた新たなリズムと独特のアクセントを持つ言葉を、その身体と声の全集中を注いで客席へと叩きつけて来る。

観客ははじめ、表面的な意味を剥奪された俳優の行為と言語に戸惑い、翻弄されるが、やがて目の前のそれらと強く結ばれ、そこにしかない時間を体感しながら、深く自身の内側へと思考を向けることになる。舞台上の出来事を観る「観劇」という行為に観客を安住させず、そこに映る自分自身に目を向けさせる三浦作品は、従来の演劇とは大きく違う“冷たい熱”のような刺激を客席に満たすのだ。

KAATへの新作で、三浦が選んだ題材は芥川龍之介。個別の作品だけでなく、作家自身をモチーフとする創作には、宮崎の劇団『こふく劇場』主宰の永山智行が「戯曲」にその名を連ねている。二人は10年3月、愛知の劇団『うりんこ』の依頼を受け、太宰治の「お伽草子」を児童劇化することを、戯曲＝永山、演出＝三浦の分業で既に経験しており、『Kappa／或小説』はそこから歩みを進めた共同創作とも読める。どこか神話的で抒情豊かな劇世界を展開する永山と、先鋭かつ前衛的な三浦のコラボレーションが回を重ね、どこに向かうのか。両者の単独作品以上の見ごたえが、この舞台には期待できるだろう。

新劇場の志を象徴するふたつのプログラム。二作品は観客の演劇体験をさらに広げる可能性をはらむだけでなく、日本の現代演劇にも少なからぬ刺激を与えるに違いない。

（文　尾上そら）

シリーズ

KAATを支えるクリエイターたち

伊藤文一（ぶんいち）　＃4　澤藤 歩
神奈川芸術劇場 事業制作第二課

伊藤文一さんと澤藤歩さんは、
神奈川芸術劇場＜KAAT＞の制作担当、つまりプロデューススタッフ。
つくり手と観客の間で、より良い作品を完成させる重責を担う。
制作スタッフとしての立場と役割、そして作品への想いを語ってもらった。

―劇場の制作スタッフという立場から、KAATの特性をどう考えていますか？

伊藤　フリーのプロデュース作品ではなく、劇場が作品をつくる場合、その劇場の置かれた地域とか場所のことを考える必要があると思っています。神奈川は東京のすぐ隣で、情報が届く速さも内容もほとんど同じですから、差の付け方が難しい。ではどうするか。東京では大規模な作品が上演される傾向があるので、あえて神奈川では、舞台芸術という非常に幅広いジャンルの中でなかなか紹介されないマイナーなものでも、「これはおもしろい！」と思えるものは上演していきたいと思っています。

澤藤　私は、芸術監督がいる点がKAATの大きな特徴だと考えています。宮本亜門さんと意見を交換しながら、この地域、この劇場なりのカラーを出していきたいですね。幸いなことに横浜や近隣には文化施設が多いので、それらと協力し合うことで、より多くの方に舞台芸術に触れていただく機会を増やしていこうと計画しています。

―KAATの制作スタッフは、主催公演に関しては企画から立ち上げ、演出家や劇作家と意見を交わして作品をつくるそうですね。

澤藤　劇場のテーマが「モノをつくる、人をつくる、まちをつくる」ですから、私たちと演出家の方たちが共に作品をつくっていくのは自然な流れです。私は『ゾウガメのソニックライフ』という作品を担当していますが、作・演出の岡田利規さん（『チェルフィッチュ』主宰）は「演劇がこれからの社会のためにできること」を真摯に考えてくださいます。劇場が若い世代にも開かれた場所であってほしいと考える私自身、それにはとても刺激を受けています。

KAATの立体サイン（劇場2F）

伊藤　若い劇団が自分たちの力ではできなかったことのお手伝いをするのは、公共劇場の役割のひとつだと思います。たとえば、本番と同じ舞台で長く稽古できること、劇場の舞台スタッフがテクニカルなサポートをすること、劇団の一般的な認知を広められることなどですね。私が担当しているのは三浦基さん（『地点』主宰）で、芥川龍之介の小説数編をもとに『Kappa／或小説』という作品をつくります。岡田さんもそうですが、今回だけでなく複数年、一緒に作品をつくっていこうというKAATの姿勢が、彼らの信頼を得ているように感じます。

（取材・文　徳永京子）

劇場のフロアガイドなど、施設案内はホームページで！ http://www.kaat.jp/

神奈川芸術劇場〈KAAT〉からのお知らせ

ミュージカル『太平洋序曲』少女役オーディションが行われました

神奈川芸術劇場〈KAAT〉芸術監督の宮本亜門演出により、6月～7月に上演予定のミュージカル『太平洋序曲』。キャストも続々と決まりつつある中、大切な役のひとつである少女（武士の娘）が一般公募され、昨年11月10日に劇場内の中・小スタジオでオーディションが行われた。今回は県民に開かれた劇場として、広くチャンスを提供するという姿勢から発案されたが、オーディションを受けるのが初めてという方から、すでに芸能活動をしている方まで、集まった350名あまりのキャリアは多彩。本公演で実際に演じる重要な場面（着物による日本舞踊と歌）がそのままオーディションの課題となり、受験者たちは次々と愛らしく可憐な演技を披露してくれた。後日の配役発表およびステージで、新しい才能の登場に注目しよう。　（オヤマダアツシ）

CLOSE UP 05

温泉に注目！

熱いお湯につかって大きくひと息
そして酒と肴（さかな）による味覚の快楽、
冬になると恋しくなる温泉ですが
神奈川は名湯および保養地の宝庫。
それゆえ芸術家や作家が愛し
創作の源泉となった地が点在します。
気軽に訪れて湯と芸術の香りを楽しみ、
知的好奇心も満足させましょうか。

湯河原梅林（幕山公園）「梅の宴」　2月5日（土）～3月13日（日）午前9時～午後4時 開催
今年で16回目を迎える「梅の宴」。湯河原町幕山の山麓斜面に4,000本の紅梅・白梅が
「梅のじゅうたん」のごとく咲き乱れ、園内はほのかな梅の香りに包まれる。
お問合せ：湯河原町観光課　☎0465-63-2111

名画『湖畔』を描いた想い出の場所は誰もが知る観光スポットだった

黒田清輝の代表作である『湖畔』（1897、東京文化財研究所黒田記念館所蔵）は、箱根の芦ノ湖を背景に23歳の女性を描いた油彩画。『避暑』というタイトルで展覧会に出品されたこともあり、約110年前の風景を現代に伝えてくれる作品だ。モデルになった金子種子とは、黒田が晩年を迎えてから長年の想いを遂げて結婚。２人にとって想い出の場所でもある芦ノ湖南岸付近はかつて箱根の関所があった場所であり、現在も遊覧船乗り場や箱根駅伝の復路出発地点として知られている。

あのジョン・レノン一家も逗留 著名人の足跡と想い出が残された箱根

2010年に生誕70年・没後30年を迎え、CDの再発売などで若い世代にも新しいファンが増えたジョン・レノン。プライベートな来日も多かった彼は、その足跡を箱根にも残している。クラシック・ホテルの代表格である富士屋ホテルに宿泊した彼は、ヨーコ夫人と息子のショーンを伴い、散策を楽しんだのだろう。ほかにも箱根を訪れた海外の著名人には、チャップリンやヘレン・ケラーなど、今や歴史上の人物となったビッグネームが多数。観光で訪れた際には、そうした人たちの足跡に出会えるかもしれない。

たくさんの名作を生んだ湯河原の風情 温泉につかりながら文学散策も

多くの有名作家が逗留し、名作を執筆したことでも有名な湯河原。温泉での静養はもちろん、豊かな緑や千歳川のせせらぎなどが情緒を生み、執筆意欲をかき立てられるのだろう。文士の宿と呼ばれる旅館も多く、町の主催による文学賞も10年の歴史をもつという「文学の地」なのだ。温泉地の風情は夏目漱石による未完の大作『明暗』、島崎藤村の『夜明け前』、国木田独歩の『湯河原ゆき』、芥川龍之介の『トロッコ』など多数の作品に影響を与えている。

（オヤマダアツシ）

>PICK UP

箱根温泉
ポーラ美術館

「アンリ・ルソー～パリの空の下で」
開催中～3月13日（日）
箱根にゆかりのある黒田清輝の作品は『菊』など3点を所蔵。
現在はフランスの画家アンリ・ルソーの企画展が行われている。
黒田作品など日本の洋画家のコレクションは常設展でみることができる。
開館：9：00～17：00（入館は16：30まで）
会期中無休
入館料：一般1,800円、
大学・高校生1,300円、
中学・小学生700円（土曜無料）
お問合せ：☎0460-84-2111

箱根温泉
富士屋ホテル 花御殿

国内外の著名人も数多く滞在した富士屋ホテルの「花御殿」は、1936年建造の歴史的建造物。
「登録有形文化財」「近代化産業遺産」に指定されている。
各部屋に花の名前がつけられ、「フラワーパレス」として海外にも知られている。
お問合せ：☎0460-82-2211

湯河原温泉
郷土資料館

国木田独歩、夏目漱石、芥川龍之介、与謝野晶子、島崎藤村、谷崎潤一郎など、明治時代から湯河原を訪れた様々な文士作家の作品や紹介パネルが展示されている。
湯河原観光会館内　開館：9：00～17：00
年中無休　入場無料
お問合せ：（社）湯河原温泉観光協会
☎0465-64-1234

神奈川フィルハーモニー管弦楽団　演奏会案内

シネマ・クラシックス

2月5日（土）15：00開演　神奈川県民ホール　大ホール
指揮：梅田俊明
出演：川井綾子（Pf）、光岡暁恵（Sop）、向野由美子（M•Sop）、小山陽二郎（Ten）、
羽渕浩樹（Bar）、神奈川フィル合唱団
プッチーニ／歌劇「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」、シベリウス／フィンランディア、
ショパン／夜想曲第20番「遺作」、ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱付」ほか
S4,000円　A3,000円　B2,000円　※学生（小～大学生）・シニア（65歳以上）は各席種半額

第269回定期演奏会

2月19日（土）14：00開演　横浜みなとみらいホール　大ホール
指揮：金聖響　ヴァイオリン：南紫音
モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第4番、マーラー／交響曲第5番
S6,000円　A4,500円　B3,000円　学生（B）￥1,000円　シニア（70歳以上）は各席種2割引

お問合せ：神奈川フィル・チケットサービス ☎045-226-5107（平日10：00～18：00）
http://www.kanaphil.com/　※未就学児童のご入場はご遠慮下さい。

神奈川県立近代文学館　企画案内

収蔵コレクション展10　中山義秀（ぎしゅう）展

生まれ育った福島県と終（つい）の棲家となった鎌倉の地縁を柱にその生涯と作品を紹介します。
1月15日（土）～2月27日（日）　※休館日は毎月曜日
大人250円　20歳未満及び学生150円（高校生以下、65歳以上は無料）
県立神奈川近代文学館　展示室
※常設展「文学の森へ　神奈川と作家たち」第1部と同時開催

萩原井泉水（おぎわらせいせんすい）と「層雲（そううん）」100周年記念展

萩原井泉水文庫を所蔵する当館が「層雲」100周年の歩みをその功績とともに振り返ります。
3月5日（土）～4月17日（日）　※休館日は毎月曜日（3/21は開館）
大人250円　学生150円　※4/1以降は高校生、65歳以上有料（料金未定）
県立神奈川近代文学館　第3展示室
※常設展「文学の森へ　神奈川と作家たち」第２部と同時開催

〒231-0862　横浜市中区山手町110　☎045-622-6666
http://www.kanabun.or.jp/

神奈川県民ホール Kanagawa Kenmin Hall http://www.kanagawa-kenminhall.com/
KAAT 神奈川芸術劇場 http://www.kaat.jp/
木のホール 神奈川県立音楽堂 Kanagawa Kenritsu Ongakudo http://www.kanagawa-ongakudo.com/

18th The International Arts Festival In Kanagawa

神奈川芸術劇場〈KAAT〉開館記念
第18回
神奈川国際芸術フェスティバル

はじまり、はじまる。

2011年1月→4月

オペラやオーケストラから文楽、落語まで幅広いラインナップを取り揃えた今回の神奈川国際芸術フェスティバル。
全11演目、69公演に及ぶ芸術のシーズンの始まりです。
注目の神奈川芸術劇場＜KAAT＞オープニング・ラインナップも見逃せない！

演　目	出演者など	公演日（2011年）	会　場
金閣寺	演出 宮本亜門／出演 森田剛、高岡蒼甫、大東俊介 他	1月29日（土）～2月14日（月）	神奈川芸術劇場 ホール
ゾウガメのソニックライフ	作・演出 岡田利規／出演 チェルフィッチュ	2月2日（水）～15日（火）	神奈川芸術劇場 大スタジオ
音楽堂で聴く雅楽	管絃・舞楽 東京楽所／箜篌 佐々木冬彦 花 假屋崎省吾	2月19日（土）	神奈川県立音楽堂
「千年の響き」 アンサンブル・ニュー・トラディション	プロデュース 一柳慧／正倉院復元楽器による演奏	3月5日（土）	神奈川県民ホール 小ホール
Kappa／或小説	演出 三浦基／原作 芥川龍之介／出演 地点	3月11日（金）～21日（月・祝）	神奈川芸術劇場 大スタジオ
春風亭小朝独演会	春風亭小朝 他	3月12日（土）、13日（日）	神奈川芸術劇場 ホール
歌劇「アイーダ」全4幕	指揮 沼尻竜典／演出 粟國淳	3月20日（日）、21日（月・祝）	神奈川県民ホール 大ホール
杉本文楽 曾根崎心中	演出・構成・美術・映像 杉本博司／出演 豊竹嶋大夫、 鶴澤清治、吉田簑助、桐竹勘十郎 他	3月23日（水）～27日（日）	神奈川芸術劇場 ホール
はなれ瞽女（ごぜ）おりん	脚本・演出・美術・作曲・人形操演 たいらじょう	3月25日（金）～27日（日）	神奈川芸術劇場 大スタジオ
クラシックな休日を♪ in 音楽堂	指揮 藤岡幸夫／管弦楽 神奈川フィル	4月16日（土）	神奈川県立音楽堂
オープンシアター	現田茂夫指揮・神奈川フィル オーケストラ・コンサート パイプオルガンコンサート バックステージツアー 他	4月30日（土）	神奈川県民ホール・神奈川芸術劇場

主催：神奈川県民ホール　神奈川芸術劇場　神奈川県立音楽堂　（指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団）

チケットのお求めは
インターネットチケット予約（24時間受付）
http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/
チケットかながわ　045-662-8866
（電話10：00～18：00 / 県民ホール窓口10：00～18：00 / 音楽堂窓口13：00～17：00月休）

Arts Fusion in Kanagawa Part2 リボンの騎士～鷲尾高校演劇部奮闘記～

新しい舞台芸術作品の創造・発信を目指して毎年開催している
Arts Fusion（アーツ・フュージョン）シリーズ。
今回の作品は、劇作家・横内謙介氏が、自身の高校時代の体験から着想を得て、
手塚治虫の『リボンの騎士』を上演することとなった高校演劇部員たちの奮闘を描く学園ドラマです。

出演：公募オーディション合格者及び扉座劇団員　作・演出：横内謙介　振付：ラッキィ池田、彩木エリ

2月26日（土）13：00開演、18：00開演　2月27日（日）14：00開演
県立青少年センター ホール
一般：前売2,000円／当日2,500円
高校生以下・65歳以上：前売1,000円／当日1,200円
チケット予約：045-662-8866（チケットかながわ）
お問い合わせ：045-210-3808（県民局文化課）

オーディションの様子

横内謙介

カナガワミュージックサミット2011

県内で育まれた音楽がジャンルを越えて競演する、
県最大級の音楽祭典です。

3月12日（土）
県立青少年センター　ホール
入場料500円
問い合わせ：NPO法人アークシップ045-243-2247、
県文化課045-210-3808
事業内容の詳細はホームページから：
http://www.arcship.jp/kms/

WHAT'S ON? 05

横浜・山下町周辺のアート、コンサート、イベント情報ピックアップ

❶ヨコハマ創造都市センター（YCC）

横浜市・北京市アーティスト・イン・レジデンス交流事業展（仮題）

3月19日（土）～3月30日（水）予定

北京を中心に活躍する現代美術アーティストの陳維（チェン・ウェイ）がＹＣＣにて滞在制作した成果展。
１月～3月の滞在期間中には、展覧会他、ゲストスピーカーを交えたトークイベントの開催も予定している。

開館時間：11：00～19：00　休館日：3月22日　料金：無料

お問合せ：アーツコミッション・ヨコハマ　☎045-227-7322

❷神奈川県民ホール 小ホール

吉田誠（クラリネット）

「季節の風」コンサート シリーズ　冬～春

「季節の風」〈ミニ〉ヴァレンタイン・スペシャル　2月11日（金・祝）14：00開演

料金：全席指定500円　＊休憩なし・約1時間

県民ホール初登場、吉田誠のクラリネットでヴァレンタインには愛の歌を！

「季節の風とティータイム」バロックな午後　3月26日（土）14：00開演

料金：一般2,000円　学生1,000円（24歳以下）　＊チェンバロ楽器紹介・1ドリンク付

かつてJ.S.バッハが演奏したという“ツィンマーマンのカフェ・ハウス”。当時のプログラムを高田泰治（チェンバロ）、延原武春（指揮）＆テレマン室内オーケストラが再現。

お問合せ：チケットかながわ　☎045-662-8866

高田泰治（チェンバロ）

❸急な坂スタジオ・のげシャーレ・STスポット

急な坂スタジオ

坂あがりスカラシップ公演

藤田貴大演出「コドモももも、森んなか」ＳＴスポット：2月1日（火）～2月7日（月）

神里雄大演出「街などない」 のげシャーレ：2月13日（日）～2月20日（日）

「坂あがりスカラシップ」は、急な坂スタジオ・のげシャーレ・STスポットが連携のもと、稽古から舞台上演までトータルサポートする舞台芸術の創作支援プログラム。
1月～2月には、2010年度の対象者2人の演出作品が上演される。

お問合せ：坂あがりスカラシップ事務局（急な坂スタジオ内）　☎045-250-5388

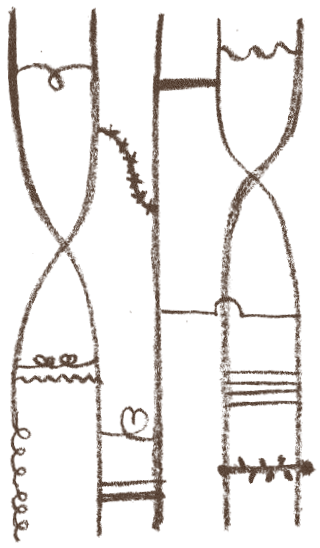
森さんぽ 5

森日出夫さん撮影の写真でめぐる横浜散歩

中華街 春節

中国旧暦の正月を祝う「春節」は中華街の大イベント。毎年、新年カウントダウン、中国獅子舞をはじめとする祝舞パレード、中国雑技や京劇などが繰り広げられる。2011年は2月3日が春節。横浜開港151周年記念の「Y151メモリアル春節燈花」が2月28日まで開催されている。

気分で選ぶ ART GUIDE アートガイド



文学魂　音楽室で聴く雅楽▼P7・ホールニュース P4
悠久の時　地点「Kappa／或小説」▼P4・ホールニュース P1
豪華絢爛　坂あがり スカラシップ公演▼P8
将来有望　歌劇「アイーダ」▼P7・ホールニュース P2
刺激的　近代文学館 中山義秀展▼P6

県内のアート情報はここで探そう！　http://www.kanagawa-at.info/「かな@」で県内のアート情報を検索できます。

横浜中華街にて127年目の味を

メニュー例

海老入り蒸し餃子 …… 1個 220円（税・サービス料込）
中華街発祥 サンマー麺 …… 1,166円（税・サービス料込）
おこげの五目あんかけ …… 3,344円（税・サービス料込）

心の感動の次は味覚の感動の舞台
明治17年創業、聘珍樓横濱本店へ

県民ホール・芸術劇場より徒歩5分
横浜市中区山下町149中華街大通中央
TEL. 045-681-3001

午後11時まで営業
ラストオーダー午後10時
営業時間（全日）11:00～23:00
http:/www.heichin.com/

聘珍樓 HEICHINROU 聘珍樓 横濱本店

Vol.98（通巻102号）2011年1月15日発行（奇数月15日発行）TEL045-633-3760 FAX045-681-1691　発行：神奈川県民ホール（指定管理者：（公財）神奈川芸術文化財団）　企画・編集：（公財）神奈川芸術文化財団、（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
【禁無断転載・複写】